OPEN HOUSE2019春

注目集めた水なしオフ輪

ミヤコシ

小ロット、短納期対応
軟包装印刷に革新起こす

㈱ミヤコシ（本社・千葉県習志野市、宮腰亨社長）は3月18・19の両日、秋田・大仙の宮腰精機㈱国見工場で、「OPEN HOUSE2019春」と銘打った内覧会を開催した。2日間合計で100人超の来場者が訪れたこの内覧会では、薄手のフィルムにも対応する間欠式の水なしオフセット輪転印刷機や、プライマーコーティングユニットを搭載することでオフセットインキが乗りにくい基材にも印刷できるソリューションなどを紹介。軟包装印刷における小ロット化に応える、革新的なソリューションを提案した。

宮腰社長

会の冒頭、あいさつに立った宮腰社長は「みなさんが当社に対して抱いているイメージはビジネスフォーム印刷機メーカーなのかもしれないが、当社では数年前から生活産業資材向けの機械の売上を伸ばす方針を打ち出し、ラベル印刷やパッケージ印刷向けの機械の開発を積極的に進めている。本日披露するのはその一環として開発した機械となる。軟包装印刷市場ではグラビア印刷が主流だが、一方で小ロット化に対応するソリューションが求められている。その中でフレキソ印刷という選択もあるのだが、高い印刷品質が求められる日本市場においてはオフセット印刷の方が多くの可能性を持っていると考える。これらの機械をもって市場のすべてを変えようとは思っていないが、軟包装印刷の課題となる部分を埋められるような存在となりたい。インキの乗りにくい基材や薄い基材への対応、間欠印刷への対応、ホワイトインキの濃度を出すためのフレキソ印刷ユニットを組みこんだハイブリッドラインへの対応と、用途に応じた機械の種類を取り揃えることができた。みなさんには開発の成果を見てもらい、忌憚のない意見を聞かせてもらいたい」と軟包装印刷に革新をもたらすことを狙った技術・製品開発に向けた想いを表した。

今回披露した製品の中でもっとも注目を集めたのが、軟包装向け間欠式水なしオフセット輪転印刷機「VPP13WL」だ。昨年、同社では「VAR18B」という軟包装用の間欠式オフセット輪転印刷機を発表したが、一般的に使われているPETの12μ㎜やOPPの20μ㎜といった薄手のフィルムには対応していなかった。そこでこの「VPP13WL」では、間欠式は基材を水平通しするという常識を破り、圧胴に巻き付けながら搬送する経路にし、かつ圧胴も正転／逆転を繰り返すことができる機構を採ったことで、薄手のフィルムにも対応できるようにした。

「VPP13WL」

「MFX52S」

間欠式での具体的な印刷の流れとしては、基材はまず版胴の周長分だけ送られて印刷され、そこでいったん停止。そして版胴と印刷面の天地サイズの差の長さだけ基材が逆方向に戻される。この動作を繰り返すことにより、疑似的にシームレスな連続印刷をすることもできるようになる。また、この機械は各印刷ユニット後に窒素パージLED－UV装置も搭載している。空気中の酸素がUVインキの硬化を阻害することから、照射部を窒素ガスで満たすことで臭気の原因となるインキ中の成分の削減が可能となり、これにより食品関係の仕事での活用も可能となる。

実演では、印刷面の天地サイズが変更しても版胴交換が不要で小ロット短納期向けである点、印刷品質は従来のオフセット品質で網点の再現性にすぐれている点を紹介しつつ、印刷最高速度（毎分300ショット）で、C・M・Y・K・白・白の6色で印刷。OPP20μ㎜とPET12μ㎜の基材への2ジョブを、東レ㈱が開発した環境に配慮した水溶性インキを使った水なし印刷で行った。

また、オフセットインキの密着性が悪い汎用品のフィルムにも対応する、プライマー搭載のオフセット輪転印刷機「MHL13A」も披露された。これは、まずプライマーで基材をコーティングしてインキ受理層を作ってからオフセット印刷をする仕組み。オフセットインキへの適性が低い基材を使用したいケースに向けて開発されたモデルで、印刷最高速度は毎分100㍍、色数は5色でプライマーはフレキソタイプ1色（水性／UV兼用）を備え、窒素パージLED－UV装置も搭載している。また、ホワイトインキの隠蔽性を求められるケースに向けて、フレキソ印刷ユニットを追加できる仕様となっている。

そのほかに、包装薄紙向け水性フレキソ印刷機＋シートカット装置「MFX52S」も披露。これは、超薄紙に5列に面付けして印刷したものをスリットし、それを重ね合わせてからシートカットして排出するもの。後加工までを1パスで処理するソリューションで、水性フレキソ印刷ユーザーに向けてインライン加工による生産性向上を提案した。

さらに、今夏に紙ストロー生産機を発表する予定も明らかにされた。

ggg企画展

東京TDC賞の成果を展示
4月3日～27日

大日本印刷㈱ギンザ・グラフィック・ギャラリー（ggg、東京・中央区）の第372回企画展「TDC2019」が、4月3日から27日まで開催される。

東京タイプディレクターズクラブ（TDC）が主催する国際アニュアルコンペティション「東京TDC賞2019」の成果を見せる同展では、グランプリはじめ受賞10作品やノミネート作品など、タイポグラフィを軸にしたグラフィックデザインの優秀作品約150点を展示する。

授賞式・オープニングパーティは、5日午後5時から同所で行われる。

［開催要項］
会期＝4月3日（水）～27日（土）
開館時間＝午前11時～午後7時（日曜・祝日休館）
入場料＝無料
会場＝東京都中央区銀座7の7の2、DNP銀座ビル

フォーラム開催

6日午後1時30分から、東京・西五反田のDNP五反田ビル1Fホールで「デザインフォーラム『TDCDAY2019』」を開催する。

フォーラムは、①受賞作品プレゼンテーション②タイポグラフィをテーマとする参加型企画の2部構成。

レ 世界初水なしオフ機
東レ 軟包装材向けに共同開発

東レ㈱（本社・東京都中央区、日覺昭廣社長）は、NEDO事業において、㈱ミヤコシなどと食品や生活用品などの軟包装材向け印刷用に、世界初となる水なしオフセット印刷機を共同開発した。この印刷機は、印刷工程にVOCを含む液体（＝湿し水）を使わない水なし印刷方式を採用しており、環境に配慮した印刷が可能。東レ独自の水なし平版と、省電力LED－UV技術によるインキ乾燥方式を組み合わせることで、軟包装用印刷のVOCフリー化と、従来の印刷方式に比べて約80％の消費電力削減を実現する。

今回開発した軟包装用水なしオフセット印刷機は、東レ独自の水なし平版と水溶性UVインキとの併用により、印刷時に湿し水を使う必要がないほか、印刷後の設備などの洗浄にVOCが発生しない水系洗浄液を利用できる。加えて省電力性が高いLED－UVを使ったインキ乾燥方式を組み合わせることで、溶剤乾燥と排気処理が不要となる。これによりグラビア印刷方式に比べてVOC排出量の98％以上の削減と、印刷機1台あたり約80％減となる年間96万kWhの電力消費量の削減を実現。さらに、VOCフリーシステムによって排気処理装置や防爆対応設備が不要となるほか、平版の使用により版代コストを安く抑えられる。

ザウアー社長。後ろは新規導入機

四六倍判８色印刷機へ「カットスター」を搭載
ザクソプリント社

独・ドレスデンにあるオンライン印刷会社のザクソプリント社では今年1月、ロールtoフィーダーの「カットスター」を搭載した四六倍判両面兼用8色印刷機「スピードマスターXL162」を導入した。四六倍判サイズでの「カットスター」の搭載は世界初。

同社は、売上2桁成長を近年続けており、オンラインの商業印刷で1億ユーロ超の売上をもつ。チラシ、ポスター、カタログが約8割を占めるものの、パッケージングと後工程が現在は成長分野となっている。Webショップで受注した仕事は特別なアルゴリズムを使って処理され、ギャンギングの手法でそれぞれの機械に振り分けている。

同社では高い効率性とスピードが重要で、毎日最大5000件の注文を3シフトで生産する。そんな同社工場の最新設備は、全長が50㍍におよび、反転機構と「カットスター」を搭載した「スピードマスターXL162－8－P」だ。「カットスター」は1回のロール交換で、3～4パレット相当の用紙を給紙することができる。少ない準備時間と安定給紙による停止回数の少なさは「スピードマスターXL162」の生産性を約2倍に高めている。

また「カットスター」の断裁精度は0・3㍉以下で、通常の用紙よりもすぐれており、カットされ印刷された用紙は後加工にすぐに持っていくことができ、紙揃え工程も不要となる。同機のもうひとつの利点がデリバリー部のダブルグリッパーテクノロジーで、これによりシートブレーキと非印刷部分を印刷エリアとして使うことができることから、400種類の異なる名刺を1600㍉幅の用紙いっぱいに印刷することができる。

同社のクラウス・ザウアー社長は、「我々はイノベーションと効率を上げることで用紙代10％の値上げを吸収することに成功した。用紙コストは我々のコストの中で最大30％を占めるため、とても重要となる。さらにロール紙は、カットされた用紙と比較し6％も安くなる」と話す。

また続けて、「私がハイデルベルグの機械が好きなのは、高いレベルの自動化と使いやすさに加え、高度な技術が使われているからだ。スピードマスターXL106の準備時間は安定して2分以下で、ヤレ紙は20～40枚。これは環境に配慮した生産を重視している当社にはピッタリなものだ」と述べている。

2年連続でなでしこ銘柄に選定
セイコーエプソン

セイコーエプソン㈱（本社・長野県諏訪市、碓井稔社長）は、経済産業省と東京証券取引所から、平成30年度「なでしこ銘柄」に2年連続で選定された。

「なでしこ銘柄」とは、経済産業省と東京証券取引所が共同で平成24年度から、女性活躍推進にすぐれた上場企業を選定し、発表しているもの。女性活躍推進にすぐれた上場企業を、中長期の企業価値向上を重視する投資家にとって魅力ある銘柄として紹介することを通じ、企業への投資を促進し、各社の取り組みを加速化していくことを狙いとしている。

女性活躍に向けた働き方改革や意識改革の実施、女性にも管理職を目指してもらうように昇格試験制度を変更するなどの施策が評価された。

カード利用情報に店舗情報付与
共同印刷

共同印刷㈱は4月から、「データエンハンスメントサービスLight」の提供を開始した。同サービスは、クレジットカードなどの利用情報に決済店舗情報を付与するデータエンハンスメントサービスの新たなメニュー。

「データエンハンスメントサービスLight」は、顧客のニーズに、よりきめ細かく対応するために開発したサービス。店舗情報を同社のオリジナルデータベースのみで付与することで工程を簡略化し、デジタルマーケティングに欠かせない〝即時性〟に加え、低価格での提供を実現。

同サービスの提供開始により、店舗の位置情報やオンライン店舗／実店舗の区分なども考慮した販売戦略・顧客戦略を策定する場面では「標準サービス」、顧客の行動履歴を短期的に分析して、Webサイトやマーケティングオートメーションに反映する場面では「Light」というように、用途に応じてデータエンハンスメントサービスを選択できる。

スポーツ協会との契約継続
図書印刷

図書印刷㈱（川田和照社長）は、日本スポーツ協会が推進するJSPOスポーツ・アクティブ・パートナー・プログラムのオフィシャルパートナー契約の継続を締結した。同社は同プログラムの趣旨である「スポーツによる社会貢献（人づくり・地域づくり・国づくり）」に賛同することから、2018年度に引き続き、オフィシャルパートナー契約を継続し、同協会ならびに協賛社とともに、「スポーツの力で人や社会を元気にする」ことを目指し、「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンを積極的に応援するとしている。

Horizon
Change the focus
「理屈」で考えるワークフロー、
ポストプレスにフォーカスしてみませんか

四六判半裁全自動紙折機+横型プレススタッカー
AFC-566FKT+PST-44
大型カラータッチパネルを搭載し、用紙を1枚挟むだけで、全ての設定を数十秒で行います。便利なワイヤレスリモコンを標準装備し、操作パネルから離れている場所でも操作できます。

ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム
StitchLiner MarkⅢ
厚みの異なる冊子に応じて各部を自動で調整、作業を中断することなく安定した高品質な製本を実現。A4S綴じ冊子は最高6,000冊/時間、A4E綴じ冊子は最高5,300冊/時間で処理することが可能です。（製本速度は紙質や紙の厚さによって異なります。）

自動無線綴機4クランプタイプ
BQ-480
セット替えの高速化による、小ロット、バリアブル製本での高生産性を実現。1冊ずつ厚みの異なるバリアブル製本を最高で時間800冊で処理することが可能です。
PUR対応

www.horizon.co.jp
株式会社ホリゾン東テクノ
［本　社］〒132-8562 東京都江戸川区松江5-10-9 TEL.03(3652)7631(代) FAX.03(3652)8083
［東北営業所］〒984-0002 仙台市若林区卸町東1-7-31 TEL.022(782)2821(代) FAX.022(782)3068
株式会社ホリゾン西コンサル
［本　社］〒601-8206 京都市南区久世大薮町510 TEL.075(933)3060(代) FAX.075(933)4025
［九州営業所］〒813-0034 福岡市東区多の津4-12-17 TEL.092(626)8111(代) FAX.092(626)8112
［システムデザイン営業部］
〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F TEL.03(3863)5361(代) FAX.03(3863)5360

「実践的」印刷業界入門書
印刷会社のための
改訂版 新入社員読本
・内容
①印刷業界とは
②印刷会社の仕事と置かれた立場
③印刷技術の基礎知識
④印刷の現在
⑤社会人としての心構え
⑥よい仕事の進め方
●著者　相原茂明
●制作・発行 株式会社 日本印刷新聞社
●B5判・本文96ページ
●定価 本体2,000円＋税
好評発売中
日本印刷新聞社
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8
TEL.03-3553-5681 FAX.03-3553-5684